
目次

- 【01】 事業報告
 - 「地域交流会オリオン寮ウインターパーティー」
- 【02】 お知らせ
 - オリオン寮入居者募集
- 【03】 留学生の就職特集
 - 留学生の就職と現状、今後の期待について
 - 「外国人留学生ジョブマッチング交流会」
- 【04】 大阪府堺留学生会館オリオン寮生投稿コーナー
 - 大阪府あたらしい公共支援事業 「BIZ CAFE」 企業訪問に参加して
- 【05】 外国人情報コーナー
 - 転職等に伴う手続き
- 【06】 OFIX国際交流員のレポート
 - 海外に留学すること

【01】 事業報告1

■ 「地域交流会オリオン寮ウインターパーティー」

12月15日に大阪府堺留学生会館オリオン寮にて「地域交流会ウインターパーティー」を開催しました。寮生や寮生の友人留学生、日本人学生、近隣の皆様など約70名が参加されました。

今回はオリオン寮に関心を持ち、是非留学生と交流をしてみたいという可愛い女子中学生の皆さんも参加してくださいました。色々な国の留学生と恥ずかしそうに話をしている姿がとても初々しく印象的でした。大阪府北堺警察署の方から交通ルール・防犯についてのお話を聞いた後、東上野芝町自治会、健老会の方々と一緒に童謡を歌ったり、書道の指導を受けたりしました。大阪府立大学応援団の皆様が応援パフォーマンスを披露くださり、「生の応援団を初めて見て感激！」と留学生達はとても興奮していました。また、神秘的なインドネシアの舞踊披露もあったりと、盛況の内にパーティーは終了しました。

オリオン寮では、このような楽しい地域交流会を年2回開催しています。是非お越しください。お待ちしております。

【02】 お知らせ

■ オリオン寮入居者募集

オリオン寮では、上述の地域交流会の他にも防災訓練や3頁に記載の就職セミナー・交流会等、留学生に役立つイベントを多数実施しています。

現在、4月からの新規入居者を募集しています。寮生の生活の様子は3頁の寮生の投稿にも記述がありますので、参考にして下さい。入居を希望される方は、学校の留学生課へ申し出てください。

<http://www.ofix.or.jp/shien/index.html>

【03】 留学生の就職特集

■ 留学生の就職と現状、今後の期待について

大阪府専修学校各種学校連合会 留学生専門部員
入国管理局申請取次者：津川 龍一

日本政府が「留学生30万人計画」を発表したのは、今から5年前の2008年のことでした。近年のグローバル時代において、日本が優れた大学教育や、高度な技術や専門知識を留学生に修得させる事を目的として、当時約18万人であった留学生数を2020年までに30万人にまで増加させようとする計画で、現在も様々な取り組みが継続的に行われています。大学や専門学校等の高等教育機関において、留学生を高度人材に育成する事で、日本の国際的な視点での人材強化に繋げ、諸外国間における人的ネットワークを形成しつつ、相互理解・友好関係の構築を深めることが目的となっています。

この点、日本政府における補助金や奨学金制度の導入や、教育機関における留学生担当職員への研修・教育セミナーの実施、さらには留学生にとって大きな課題となる在留資格（ビザ）に関する規定が定められた出入国管理及び難民認定法（以降、入管法と称する）の改正などによって、これまで着実に総数増加に繋がっています。しかしながら、日本国内で就労する外国人総数に目を向けてみると、留学生の総数増加に比例する事なく、ほぼ横這い状況である事に気がきます。

約10年前までは、留学生の日本留学の大きな目的は、「学歴」の取得が主流でした。しかし近年では、諸外国ととりわけリーマンブラザーズショックに端を発する世界経済不況下での中国や韓国においては、より優秀な学生を採用するために学歴偏重主義が加速しており、日本にやってくる留学生にとっても、留学経験があるとの一言で母国での安定した就職先が見つかるとはいえない状況となっています。そのため、大学や専門学校等への留学生生活にて専門知識・技術を修得したのちに、母国語と日本語能力を活かして、日本での就職を最終目的とする留學生が増加しています。さらに入管法では、就労に関する在留資格（ビザ）の規定において、日本国内で就職する為には母国での実務経験が10年以上必要と定められていますが、日本にて大学や専門学校等を卒業した留學生には実務経験が免除されているのも、日本で就職を目指す学生を後押ししていると言えるでしょう。

しかしながら、大学、専門学校等を問わず、高等教育機関を卒業する日本人学生においても、就職氷河期という言葉が使われて久しい昨今、留學生にとってはより過酷な環境にあると言えます。多くの企業の場合、留學生に特化した採用枠を設けておらず、他の大勢の日本人学生と混じり、就職活動をしなければならない現状にあり、日本人学生との同等の採用試験に打ち勝たなければなりません。また、多くの諸外国においては、就職活動は学業をすべて終えた卒業式後に行われる傾向にあることから、在学中に就職活動を始める日本独特の就職活動制度を知らない留學生も見受けられます。リクルートスーツ着用、面接試験でのマナー、履歴書の書き方、新卒採用の概念等の日本固有といえる、就職活動制度に戸惑いを覚える留學生も少なくありません。

一方で、日本国内の産業界に目を向ければ、中小企業を中心にグローバル化が加速し、さらに円高状況が追い風となって、アジア諸国進出を中心とした製造ルート展開や、販売網拡大戦略を打ち立てる企業が増加しています。多数の言語に精通し、専門分野の知識・技術を修得している留學生を新規採用する事により、国際化戦略展開を望む企業が多く見受けられ、産業界の活性を実感します。しかしながら、「留學生の採用を検討しているが、どこで人材を探しているのかわからない」と採用担当者が発する機会に直面する事もしばしばです。

既述のとおり、日本国内での就職を希望する留學生が増加し、中小企業を中心とした産業界でも国際化戦略の観点から外国人留學生の採用が求められています。しかしながら、両者を結び付ける「ブリッジ=架け橋」活動が充分ではなかったために、就労者数の増加に繋がっていきなかったのではないかと感じています。この点、2009年から実施されている文部科学省・留學生総合支援事業、及び2011年より実施されている大阪府国際化戦略アクションプログラム等により教育界と産業界が架け橋によって結び付けられるべく、学校と企業とのマッチングフェアや、インターネットを利用した在留資格相談支援等が行われています。今後は、留學生及び企業の相互にとってよりよい環境が構築され、日本国内での就職を視野に入れた産学連携活動を通して留學生数の増加に向けて、大阪でのケースがモデルとなり全国へと展開されることを期待しています。

詳しくは、法務省・登録外国人統計表(外部リンク)参照
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001089591>

■ 「外国人留學生ジョブマッチング交流会」

12月1日に大阪府堺留學生会館オリオン寮にて「外国人留學生ジョブマッチング交流会」を開催しました。日本の企業で就職を希望する府内の大学、大学院、専門学校の留學生約40名と留學生の採用を積極的に考えている企業4社が参加しました。

午前中は講師を招いてのセミナーで、就職活動のスケジュール、エントリーシートを書く上での自己分析の仕方や面接時の心構え、身だしなみ、面接官に好印象を与える笑顔の作り方、お辞儀の仕方等、日本で就活を始める上での必要な知識を学び、午後からの企業交流会に臨みました。

午後からの交流会では、企業側の熱心なプレゼンテーションの後、留學生がそれぞれ30秒間で自己紹介をしてPRしました。グループ毎に分かれ企業担当者と留學生がディスカッションをした後、留學生が興味を持った企業ブースを訪問し、より詳しい話を聞きました。留學生側からは「どんな人材を望んでいるのか?」「留學生の採用は何人を考えているのか?」等、積極的に企業担当者へ質問があり、内定を望む熱い思いが感じられました。交流会終了後に、留學生に会社見学を呼びかける積極的な企業もあり、企業側の熱心な採用意欲も感じられました。終了後のアンケートでは「中小企業にも魅力はいろいろあると思った。」「中小企業に対するイメージが変わった。」「具体的に就活というものが理解できた。」という留學生からの意見、企業担当者からは「皆さん元気で積極的に満足した。」「今後もこのような機会を是非実施して欲しい。」という意見が寄せられました。

合同企業説明会や就職セミナー等は沢山開催されていますが、OFIXでは、このような留學生と企業が直接交流し、双方の生の声を聞くことのできる交流会を実施し、留學生の就職支援をしたいと考えています。

【04】大阪府堺留學生会館オリオン寮生投稿コーナー

■ 大阪府あたらしい公共支援事業 「大阪 Biz Cafe」 企業訪問に参加して

張 伝智 (中国、羽衣国際大学 産業社会学部3回生)

こんにちは、張伝智です。2012年4月からオリオン寮に引っ越してきました。オリオン寮のことは友達からの紹介で知りました。「とてもいい寮ですよ、いろんな国の留學生と付き合っ、いろんなことを教えてもらえるし、キッチンで各国の料理も味わえるし、最高だよ」って、友達のいう通りでした、ホンマに素晴らしい寮ですよ。以前はアパートで住んでいましたが、2年間隣人の顔も知りませんでした。学校から帰ってきても、ちょっと寂しい感じ

ですよ。今は寮生活のお陰で、たくさんな友達と付き合いを始めました。各国留学生の考え方や見方を知るチャンスがあり、ほんとに国際的な寮です。そして、寮の中には色々な設備等があります。例えば、OA室、集会室、ピアノ、卓球台、フラフープ、掲示板、さらには、色々な本がある談話室などがあります。誰でも利用できます。中でも私にとって最も重要な物は掲示板です。寮の玄関を入ると、すぐに目に入る掲示板です。そこに、いろいろな情報があります。例えば就職情報、地域情報、国際交流情報など、留学生にとって知りたい情報がいっぱいあります。さらに個人に合う情報があれば管理人さんが声をかけてくれて、説明してくれることがよくあります。

私の専攻は放送、メディアですから、管理人さんが声をかけてくださり、私は10月のFM番組「大阪 Biz Cafe-企業と留学生のおしゃべりタイム-」の出演者になりました。その番組はテレビ番組の製作会社の社長と留学生がディスカッションをするという内容でした。先ずは会社の見学、製作会社の営業状況と施設、機材の使い方などの説明があり、いろいろなことを教えてもらい、良い勉強になりました。次は収録時間になり、出演者は私と他の学校から来た留学生5人です。それぞれ学生の出身は、タイ、ネパール、台湾でした。

池田由里子社長から留学についての質問がいくつかあり、こちらから答えました。収録は優しい社長と面白いDJさんの話を聞いているうちに瞬間に終わってしまいました。面白い時間はいつも短く終わってしまいますね。

私はオリオン寮に住んでそろそろ1年になります。寮の友達と一緒に勉強したり、遊んだり、楽しい毎日過ごしています。これからも頑張りたいと思います。

[05] 外国人情報コーナー

■ 転職等に伴う手続き

色々な理由で「転職」を決断される外国人の方も多いと思います。

そのような場合いくつか気をつけることがあります。

外国人の方で「芸術」「宗教」「報道」を除くいわゆる就労ビザで在留する人が、転職等する場合は、入国管理局への届出が必要になっています。昨年入管法の改正前であれば、在留資格の更新の手続きの際に行っていましたが、改正後は、変更があってから14日以内に届出をすることになりましたので、ご注意ください。

雇用先に関する届出が必要な場合は次の通りです。

1. 雇用先の名称が変わった。
2. 雇用先の所在地が変わった。
3. 雇用先が消滅した。
4. 雇用先との契約が終了した。
5. 新しい雇用先へ移籍（転職）した。

届出の方法としては、直接入管へ出向くか、東京入管へ郵送することができます。その際には、在留カードの提示が必要になります。

大阪府外国人情報コーナー

対応時間：9時から5時30分（月から金）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、
スペイン語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語

[06] OFIX国際交流員のレポート

■ 海外に留学すること

皆さん、こんにちは。OFIX国際交流員のアルビンです。やっとな風邪が治りましたが、日本はまだまだ寒いですし、インフルエンザも流行っているの、皆さん体調には十分気をつけてください。今回も先月号に引き続き、ちょっとまじめな話になります。今回のテーマは海外に留学することについてです。

最近、日本人は海外に行きたがらないとよく言われています。特に今の若い世代の多くは“外向き”ではなく、“内向き”になっているとのこと。私は今大阪府国際化戦略実行委員会事務局のメンバーとして、実行委員会の事業に携わっています。特に「おおさかグローバル塾」という、大阪の高校生に海外留学を経験させることによって、大阪の将来のグローバル人材を育てるという事業を担当しています。いつも若者たちとふれあっていて、こちらもエネルギーをいただいて若返っています（若づくりはしていませんが）。

それはさておき、「海外留学は重要かも知れないが、留学すれば学業が遅れて、就職も遅れる。」と海外留学に行きたがらない人は思っているでしょう。しかし、元留学生として断言できます。「海外留学はとても大事です。」海外留学を通して、自分の視野を広げることにはできません。今の日本の若者は、世界のすべての状況は日本での状況と同じだと勘違いしている人が少なくないと思います。例えば、「日本では食べ物に困らないので、世界でも困っていないだろう」と思っている人は少なくないと思います。学校で世界にはこういうこともありますよ、と教えてもあまり実感はできません。「海外旅行はしますよ」と言う人もいますが、海外旅行は海外留学とは全然違います。何が違うのかというと、旅行の場合はほとんど観光地ばかりに行っていて、その国の真の姿を見ることはできません。それに、「世界はやっぱり違う」とわかったとしても、それは外から見ただけで、自分にとっての「ただのいい経験」にすぎません。では、留学の場合はどうでしょうか。まず、現地の言葉を勉強することができます。現地で勉強するためには現地の言葉が分からないとできません。そして、その言葉を使って、学びながらその社会の一員として社会の「違い」が実感できるだけではなく、人とのコミュニケーションを通してその社会のことをより理解することができます。それによって、自分の考え方、見方が前より広くなります。人間としてさらに成長します。日本での勉強が遅れてもそれ以上の価値はあると思います。「それは役に立つの？」と聞く人もいますが、

